

歯は口より、 ものを言い!?

小池デンタル
クリニック発



歯科用X線CTについて

当クリニックでは、歯の治療を行う前になるべく多くの情報を集めます。その中でも「歯科用X線CT」で得られる情報量は非常に多く、これまでの2次元での情報ではなく3次元の情報として得られるため、治療方針の決定や患者さまへの説明(カウンセリング)にも非常に有用です。また、「歯科用X線CT」



【写真1】

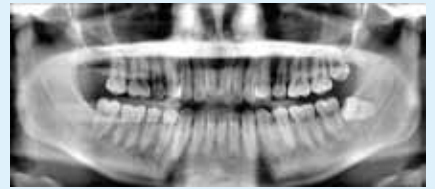
は「医用X線CT」と比較して被ばく量が少なく、当クリニックのCT

【写真1】では標準撮影35 μ Sv(マイクロシーベルト)以下です。

ところで、35 μ Svとはいったいどのくらいの被ばく量でしょうか。放射線被ばく量を表す単位として、一般的に認知されてきましたが、まだまだなじみ

放射線の被ばく例	被ばく量
小池デンタルクリニックCT撮影	35 μ Sv
歯科用パノラマX線撮影	40 μ Sv
胸部X線集団検診・1回	50 μ Sv
東京⇄ニューヨーク間航空機で往復	200 μ Sv
胃X線集団検診・1回	600 μ Sv
日常生活での年間の被ばく量(日本平均)	1,500 μ Sv
頭部X線集団検診・1回	2,000 μ Sv
日常生活での年間の被ばく量(世界平均)	2,400 μ Sv
胸部CT撮影	6,900 μ Sv
ブラジル・ガラバリ市街地年間の被ばく量	10,000 μ Sv

【写真2】



【写真3】



【写真4】



の薄い単位だと思えますので、例を表記します。

一覧をみていただければ当クリニックでのCT撮影がいかに少ない被ばく量であるかご理解していただけたと思います。このCTはデジタル撮影用であるため、表中のフィルムによる口全体が写る歯科用パノラマX線撮影【写真2】よりも被ばく量が少なくなります。

また、撮影にかかる時間も器械に座っていただいて位置決めを行ったあとは17秒で撮影が終了します。先述のとおり、撮影したCT画像は診療に用いるだけではなく、カウンセリングにも利用しますが、CTのデータを元にコンピューターによる画像の再構築を行うことで、各々の口の中を骸骨のような状態で立体的にお見せすることができます【写真3・4】。これまでの平面で白黒なレントゲン画像と違い、骨の状態が患者さまにも比較的わかりやすいため、保険診療、自費診療を問わず、当クリニックでは「歯科用X線CT」を利用し、詳細な情報をもとに治療計画を立案してカウンセリングを行い、患者さまに納得していただける治療を行います。

院長 小池秀行